

2013年度 教職課程活動報告

荻野佳代子

本年度教職課程にとっての最大のニュースは、教員採用試験合格者が57名（判明分、既卒含む）と近年最多の合格者数となったことです。このうち約1/3の18名が現役生であり、とりわけ保健体育科で4名の現役合格者が出たことは、2006年人間科学部創設以来の努力が実った大きな成果といえるでしょう。

またカリキュラム改定に伴い、本年度は新規科目として4年次後期の必修科目「教職実践演習」、2年次以上必修科目「教育方法論」「教育課程論」が開講されました。さらに来年度は「教職論」が2年次以上必修科目として開講される予定であり、教科書編集などの準備を行いました。

「教職実践演習」では、4年生が教育実習での経験を振り返り、自己の課題を明らかにしたうえで関心の近い学生同士が演習形式で実践研究を行いました。まず卒業生教員を招いての特別講義では、学生たちが教員としての生涯にわたるキャリアを展望しながら、初期キャリアの課題や心構えを考える契機となりました。その後の研究活動そして1月に行われたまとめとしての発表では、各教科の授業ならびに学級経営、部活動の研究をはじめとして、ICT、いじめ、気がかりな生徒への支援、学校におけるコミュニケーションやストレスなど、昨今の学校現場を取り巻く多彩なテーマが取り上げられました。

演習形式での研究・発表は、グループによっては学部学科も異なり初めて顔を合わせる者同

士ということもありましたが、互いの意見を出し合いながら議論を深め、役割分担を決め、自発的に活動を行う姿が見られました。教職課程履修だけでなく大学生としても総まとめの段階にある学生たちの成長ぶりがうかがえました。

さらに本年度は入江直子教授が、本学の教育活動における優れた貢献に対して贈られる「グッドティーチャー賞」を受賞しました。これは学校ボランティア活動を中心として大学と小・中学校含む地域との連携を深める取り組み等が評価されたものです。これまでの活動を基盤として本年度は3名の学生が、学校ボランティアを行った学校で教育実習を受け入れて頂くという新たな展開も見られました。

このように、様々な改革・改変の只中にある教職課程教職員一同、試行錯誤しながらもより良い教育に向けて努力しております。引き続きご関係の皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。